

# 企業ニュース 第一三共

(東証1部：4568) <https://www.daiichisankyo.co.jp/>

作成者：兵藤三郎

## ADCに注力する創薬企業

2005年、三共（1899年、三共商店として設立）と第一製薬（1918年、発足の共同持ち株会社としてスタート。グローバルに展開している創薬企業。プラバスタチン（高コレステロール血症治療剤、1989年上市：製品名メバロチン）、レボフロキサシン（経口抗菌剤、1993年上市：同クラビット）、オルメサルタン（高血圧症治療剤、2002年上市：同オルメテック）はピーク時の売上高が年1,000億円を超える大型新薬（ブロックバスター）となった。足元では抗体薬物複合体（ADC）によるがん領域の新薬開発が期待されている。ADCは抗体にリンカーと呼ばれる部分を介し薬物を結合させたもので、がん細胞に薬物を届けることが可能となる。当社のADCは多くの薬物を結合させられるなどの特徴を持つ。

◇主なADC開発パイプライン

コード	標的抗原	適応症など	開発状況など
DS-8201	抗HER2	乳がん、胃がん他	一部P3、先駆け審査指定も
U3-1402	抗HER3	乳がんなど	P1、9月WCLC発表予定
DS-1062	抗TROP2	非小細胞肺癌	P1、9月WCLC発表予定

(注) WCLC (世界肺癌学会9/7~10) にて両剤の中間データのアップデートを予定  
(出所) 第一三共資料よりCAM作成

## DS-8201の業績貢献が始まる

20.3期・第1四半期（4-6月）連結業績は、売上収益が2,492億円、前年同期比10%増、営業利益が570億円、同91%増。売上収益は為替による22億円のマイナス影響はあったが、リクシアナやネキシウムなどがけん引した国内医薬事業の伸長、アストラゼネカ社（英、AZ）からのDS-8201（新薬候補のADC）に対する契約一時金（25億円）などにより増収。リクシアナはグローバルで伸長、114億円の増収要因。営業利益は売上収益増に加え研究開発費削減、日本橋ビル売却益計上もあり271億円の増益。個別案件の詳細開示はないが、研究開発費の削減はDS-8201でのAZとの提携が影響している模様。

20.3期業績の会社計画は、売上収益が9,400億円、前期比1%増、営業利益が1,000億円、同20%増。第1四半期としては好調なスタートだが、営業利益面での不動産売却益など一過性要因があった。AZとの研究開発費用負担割合など今後決定するファクターなどを考慮し、期初計画は据え置かれたが、計画に対する進捗は高いと推定できよう。

## [株価動向・投資判断]

株価は上場来高値近辺だが、ADCの業績貢献への期待は高く、押し目を狙いたい銘柄であろう。9月に予定される学会での中間データのアップデートに注目したい。

<4568 第一三共 業績:IFRS>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上収益	営業利益	税引前利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
18.3	960,195 ( 1)	76,282 (▲14)	81,021 (▲8)	60,282 ( 13)	91.3	70.00
19.3	929,717 (▲3)	83,705 ( 10)	85,831 ( 6)	93,409 ( 55)	144.2	70.00
20.3 予	940,000 ( 1)	100,000 ( 20)	100,000 ( 17)	72,000 (▲23)	111.1	70.00



[主要株価指標]	(売買単位：100株)
株価(2019/8/5)	6,762 円
年初来高値(高値日)	6,823 円(19/8/2)
同 安値(安値日)	3,425 円(19/1/4)
予想P E R(20.3予)	60.9 倍
1株株主資本(PBR算出用)	1,935.8 円
P B R	3.49 倍
予想配当利回り	1.04 %
(1株当たり配当金年70.00円)	
R O E(19.3)	7.8 %
発行済み株式数	70,901 万株